

研修参加報告書

(会派：市民クラブ)

<研修目的>

安来市立病院の経営状況については近年特に注目され、今後ますます厳しい財政見通しもある中で、早急に経営改善が求められている。

そこで、これからの自治体病院経営とその抜本的な改革を行なっていくために、どのような方策があるのか、最新の医療を取り巻く環境等を含め研修することとした。

<研修内容>

研修日	演題	講師名
2月12日	自治体病院経営最前線 2020	城西大学経営学部 教授 伊関 友伸

<考察①> 澤田 秀夫

新型コロナウイルスが猛威を振るっているが、幸い安来市では感染病患者の報告はされていない。しかし感染病患者が増加すると受入れは民間病院ではなく自治体病院がしなければならない。自治体病院がなくなれば感染病患者の受入れは困難となり市民への影響は少なからず出てくると考えられる。

現在、安来市立病院の今後の方向性として、老朽化している建物の規模を縮小して新病院を建設する方向性が示されている。勿論、「病床の削減」、「職員の減」も提案されている。

今回の研修で講師は、公立病院の必要性を説き、尚且つ病院への投資、職員の増加を訴えられた。やり方によっては十分に立て直しは可能だという。

また自治体病院の弱点として、自治体の事務職員が病院経営に係わることに問題があるという。確かに病院事務に出向され数年で出向復帰すれば、刻々と変化する医療制度にはついていけなくなる。

今後の安来市立病院の向かう方向性はまだ定まっていないが、市民を巻き込んで地域医療を守るベストの改革につなげていきたい。

<考察②> 原瀬 清正

城西大学経営学部教授の伊関友伸氏より、研修名「自治体病院経営最前線 2020」の講義を受講した。

伊関氏より、全国的に交通の便の悪い地方の中小病院を中心に、医師不足の状況が続き、収益が悪化したまま苦戦を強いられている病院が多く存在しており、自治体病院の役割としては、過疎地などを含め採算性等の面から民間医療機関による提供が困難な医療を提供することに限定し、持続可能な経営を目指して経営効率化を行うこと

を求めると言われた。そうした中で事務職の重要性について触れられ、自治体病院の弱点として事務職員が病院経営に関わることの問題もあり、素人の事務職員では限界がある、専門性の高い事務職員を雇用する必要がある、できない事務職員はすぐ退かせ、優秀な事務職員は10年、定年まで専門で担当させるべきと、やや過激とも思える発言をされたが、考え方を示された。確かに、庁舎での業務も自治体病院の事務業務でも市民のための業務はあるが、異業種とも言える病院事務業務は専門性の高い職員を雇用、若しくは人材育成しての配置が必要ではないかと思った。

また、首長や議員にとって県内の他の自治体病院との比較はとても重要であり、これまで比較できる指標は一般会計繰入金、経常収支、医業収支比率などがあったが、ツールとして完全なものではないもののDPC調整係数Ⅱは、医療提供の成果を横並びで分かりやすく評価できる指標との事であり、更にこの内容を確認したのちに参考にしてみたいと思う。

そして、伊関氏は本市のことにも触れられたが、「安来は病院を個室で新しくつくり、松江・米子より環境を良くして、逆に安来に来たくなるような病院にすればよい」と難なく言われたが、今後速やかに市民にとっては勿論のこととして本市財政面も含め、市民病院のあるべき姿についての最善の策が図れるように、調査研究を引き続き行っていきたいと思う。

<考察③> 岡本早智雄

城西大学経営学部教授の伊関友伸氏の講義を受講した。

今後の人口減少等も踏まえ再編等は必要であるが、特にへき地の病院については単に合理化し縮小することだけでは、その後の経営が成り立たなくなる場合もあるとのこと。医者・スタッフにとって魅力ある病院で無ければ、わざわざへき地に通ってまで働くことは無く、実際に、スタッフ不足で閉院したところも少なくないとのこと。

また、赤字を減らすことはもちろんであるが、収入を増やすための診療報酬増加の取り組みや、増患のための営業活動を積極的に実施することが必要であるとのことであった。

経営健全化は喫緊の課題だと思うが、人的な問題で立ちゆかなくなって、公立病院としての機能が果たされず、結果、地域医療が崩壊しては本末転倒である。他の医療機関を含めた安来市全体の医療の再編・ネットワーク化を早急に進め、その中で市立病院の役割を早く見定め、市民にとって魅力ある病院を作らなければならないと思う。

市の方針は5年以内に建替えに着手することとしているが、どういった病院としていくのか具体的に示されていない。市民にとって良い病院となるために、しっかり研究し、そして市民の皆さんの声を伺いながら、病院改革ができるよう努めていきたい。